

「年賀状」

滋賀銀行 取締役審査部長 西藤 崇浩



師走に入り、年賀状の準備など忙しい季節となってきました。年賀状の起源は古く、7世紀頃までさかのぼります。江戸時代の「飛脚制度」の充実で庶民にも普及し、明治時代の「郵便ハガキ」の登場により、今日の「年賀状を送る」という習慣が徐々に広がった、とのこと。

この「年賀状」スタイルは日本独自のもので、世界に誇る日本文化の一つだと考えます。最近では「あけましておめでとう」を省略した「あけおめ」メールやラインで済ませる若者が多くなりました。その結果、限られた時間にメールが殺到し、携帯電話がつながりにくくなるケースもあるようです。

昨今の職場や学校では、コミュニケーション不足が深刻となって

いますが、手書きの年賀状は、紙媒体による“アナログ”のコミュニケーションツールとして、無味乾燥の「あけおめ」にはない温かみがあります。元日の朝に郵便受けから年賀状を取り出す“楽しみ”と“ワクワク感”は、新年を肌で感じる瞬間ではないでしょうか。つつい頼りがちなパソコン印刷の年賀状でも、ひとこと手書きの言葉を添えることで、温かい気持ちを相手に届けることができます。

金融業界もデジタル化が進み、IT技術による新しい金融サービス「フィンテック(Fintech)」の流れが加速しています。しかし、私たち滋賀銀行は、今こそ温かみのある“アナログ”精神を忘れずに、来る2017年も未来創造銀行「The・ちぎん」を目指して精進してまいりたいと思います。

滋賀銀行からの
お知らせ

ATMなど一時休止のお知らせ

滋賀銀行では、サービスの向上、およびシステムの安全性をより高めるため、2017年1月に新たなオンラインシステムへの移行を予定しております。つきましては誠に勝手ながら、下図のように、当行カードでのATM取引をはじめとする全てのオンライン取引を休止させていただきます。

お客様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、2017年1月4日(水)は午前7時からオンライン取引を再開させていただきますが、店舗、提携金融機関、商品サービスにより、ご利用可能日、ご利用可能時間が異なります。詳しくは「しがぎん」HPをご覧ください。



※1 通常通り23:55からサービス休止となります。 ※2 店舗により営業時間が異なります。